

# 令和3年第3回 高千穂町議会定例会

## 一般質問通告内容集約書

高千穂町議会事務局

【 6 名 7 件 】

質問日	順	質問者	件数	件名	頁
10月15日 (金) 10:00~	1	板倉哲男 議員	1件	1. 選挙事務の改善について	1
	2	富高友子 議員	2件	1. どうぶつ基金について 2. ペットの火葬場について	7
	3	磯貝助夫 議員	1件	1. 本町のケアマネージャー不足を解消する町独自の取組みについて	8
	4	田中義了 議員	1件	1. 高千穂鉄道跡地公園化構想	9
	5	工藤博志 議員	1件	1. 町議会議員選挙を振り返って	10
	6	佐藤さつき 議員	1件	1. 新型コロナウイルス感染症ワクチン接種に関して本町の現状	11

順	質問者	件名	質問の要旨	質問相手
1	板倉哲男 議員	1. 選挙事務の 改善について	<p>令和3年9月7日に高千穂町議会議員選挙が執行されました。今回の選挙は、公職選挙法が改正され、公営が拡大してから初めての選挙でした。当初予算における町議会議員選挙費は2,127万円で、4年前の891万円から大幅に増額しています。公営の拡大は立候補者にとっては経済的負担の軽減につながりますが、自治体にとっては負担の増加となります。なお、こうした負担の増加について、国や県からの財政的な補助はなく、全額が自治体の負担です。</p> <p>当日有権者数は10,020人で、4年前の10,720人から700人減少し、人口減少を改めて実感するとともに、投票率は76.95%で、過去最低となりました。</p> <p>また、新型コロナウイルスの影響で、宮崎県独自の緊急事態宣言発令中という、前例のない事態における選挙でもありました。</p> <p>以上のことから、選挙事務において、改善すべきところは改善する必要があると思います。</p> <p>(1) 投票区の統廃合</p> <p>現在、本町には14の投票区があります。選挙人数はまちまちで、多いところで3000人以上、少ないところで200人以下の投票区があります。選挙人数の少ない投票区の投票所では、時間帯によっては1時間のうちに1人も投票に来ないこともあるようです。</p> <p>一方、投票所を運営するために、投票管理者、職務代理人、名簿対照係、投票用紙交付係の最低4人の職員と、地域住民に就いていただく立会人2人の最低6人が必要になり、当然、それだけ人件費がかかることとなります。</p> <p>8年程前に18投票区から現在の14投票区に統廃合をしたとのことですが、8年前から1700人程、人口は減少しています(2013年9月1日から2021年8月1日の比較)。</p> <p>今一度、投票区の統廃合に取り組み、選挙事務の合理化および効率化を図るべきではないかと思えます。</p>	町長

&lt;次頁へ続く&gt;

&lt;前頁から続き&gt;

### (2) 共通投票所の設置

本町は基本的に平日が投票日で、投票日当日の投票時間は7時から18時までとなっています。1時間ごとの投票入込数をみると、朝の7時から9時までがピークになっています。この現状は、朝に投票ができなければ、その後の昼や夕方時間帯には投票することが難しいということを示している可能性があります。

例えば、町の中心部で働く田原地区や岩戸地区の人が、朝に投票に行くことができないまま出勤し、仕事を終え帰宅したものの、投票時間には間に合わないというケースです。

こうしたケースに対応するため、共通投票所を導入してはどうかと思います。本来、選挙人は、自身が属する投票区の投票所で投票する必要がありますが、いずれの投票区に属する選挙人でも投票をすることができるのが共通投票所です。

仮に、町中心部の第1投票区の投票所に共通投票所を導入すれば、町の中心部で働く田原地区や岩戸地区の人でも、昼休みの時間などを利用して、投票に行くことができるようになります。

こうしたことから、共通投票所を導入してはどうかと思います。

### (3) 期日前投票所の増設

今回の選挙における投票者数は7710人で、そのうち期日前投票者は2801人で、率にして36.3%となり、過去最高となっています。

#### <参考>

補欠選挙 H30.12.23 (日) 34.7%

議員選挙 H29.9.13 (水) 35.8%

議員選挙 H21.8.30 (日) 20.0%

議員選挙 H17.9.11 (日) 17.2%

期日前投票を利用する人の割合は、今後も増加するのではないかと考えられます。

本町の期日前投票は、告示日の翌日から投票日の前日までの8時30分から20時まで可能ですが、利用した日時を見ると、期日前最終日の18時から19時の利用が非常に多くなっているようです。

&lt;次頁へ続く&gt;

&lt;前頁から続き&gt;

現在、高千穂町役場の1カ所のみが期日前投票所となっていることもあり、期日前最終日の18時から19時の時間帯は、役場駐車場が常に満車の状態が続いていました。役場前の駅通り線は2車線しかないため、役場に入りたいが入れない車で渋滞している様子も見受けられました。

以上のことから、期日前投票所を増設することは、投票率の向上につながるとともに、交通安全対策・渋滞緩和にもつながると思います。

#### (4) 期日前投票所の候補地

考えられる期日前投票所の候補地を挙げていきたいと思います。

##### ・各出張所

まず挙げられるのは、各出張所です。各地区における投票者のうちの期日前投票者の割合を見ると、三田井で47.1%、押方で39.7%、向山で34.3%、岩戸で27.5%、田原で23.2%、上野で27.0%となっており、期日前投票所が近くにある地区において、より高くなっているようです。岩戸、上野、田原の各出張所において期日前投票所を設置すれば、期日前投票の利用が促進され、投票率の向上につながるのではないかと思います。

##### ・町病院

次に町病院です。町病院は1日平均外来患者数が404人(令和元年度実績)、平均入院患者数が102人(同上)、さらに付き添いの人なども入れるとより多くの方が利用しています。診察の待ち時間や、会計待ちの時間を利用し期日前投票ができればよいのではないかと思います。

##### ・高校

次に高千穂高校です。全国的に、若者の政治離れが問題視されています。実際に、高千穂町においても、10代、20代の若い世代が、最も投票率が低くなっています(町公報2018年11月号)。そこで、高校生に対する主権者教育もかねて、高校に期日前投票所を設置してはどうかと思います。さらに、選挙事務のうち、高校生でも従事可能な職務についてもらうことで、よりいっそう効果的な啓発が図れると思います。

&lt;次頁へ続く&gt;

&lt;前頁から続き&gt;

## ・商業施設

次に商業施設です。本町の商業施設は町の中心部に集中しており、これら商業施設へは、比較的遠方の田原地区や岩戸地区の人もよく利用されています。商業施設に期日前投票所を設置することができれば、日ごろの買い物のついでに投票ができるようになるため、期日前投票の利用が促進され、投票率の向上につながるのではないかと思います。

## (5) 移動支援

本町の高齢化率は増加の一途をたどり、令和3年2月1日現在で、42%を超えています。また、本町の世帯総数に占める高齢者の夫婦のみの世帯の割合は12.9%、一人暮らしの高齢者のみの世帯の割合は14.6%と、いずれも増加しています(数字は平成27年)。また、近年では、高齢者の運転免許の自主返納も推奨されています。こうした状況において、高齢者の中には、投票の意思があるにもかかわらず、投票所へ行くことが困難なために、投票に行かないという人もいるのではないかと思います。

総務省の投票環境の向上方策等に関する研究会の報告書によると、平成28年の参議院議員選挙では、215の自治体が移動支援の取り組みを実施していたそうです。取り組み内容は、巡回・送迎バスの運行や、無料のタクシー券など自治体により様々です。

本町も、本町にあわせたかたちで、投票の際の移動支援を実施してはどうかと思います。

## (6) 選挙公報

投票率は年代別で違いがあり、10代、20代の若い世代ほど、投票率が低い傾向があります。若い世代が選挙に行かない、または行けない理由には様々なものがありますが、その中に、「誰に投票すればいいのかわからない」というものもあるようです。(町公報2018年11月号より)

選挙人が候補者のことを知る媒体として、一般的に選挙公報や選挙ポスター、新聞、インターネットなどがありますが、本町では町議選、町長選ともに選挙公報の発行を行っておりません。本町においても、選挙公報を発行すべきだと思います。

&lt;次頁へ続く&gt;

&lt;前頁から続き&gt;

## (7) 子ども対象の投票キャンペーン

総務省の調査によると、子どもの頃に親と一緒に投票に行ったことのある人は、その子供が有権者となった際、投票に行く割合が高くなるそうです。こうしたことから、総務省では親子連れ投票に係る周知チラシを作成し、選挙啓発に取り組んでいます。

さらに、自治体によっては、親子連れ投票をより一層促すために、小中学生が保護者と一緒に投票所に行くと子どもむけの景品が当たるキャンペーンを実施している自治体もあるようです。

本町においても、こうしたキャンペーンをすることで、子育て世代の投票率向上を図るとともに、将来有権者となる子供たちに対する啓発に取り組んではどうかと思えます。

## (8) 性的少数者への配慮

今回の選挙で使用された投票所入場券には、性別欄があり、男や女といった記載がされていました。しかし、近年、性的少数者への配慮から、投票所入場券への性別欄を廃止する動きが広がっています。また、同様の理由から、名簿対照の際に、氏名を読み上げをやめた自治体もあるようです。高千穂町においても、こうした配慮をする必要があるのではないのでしょうか。

## (9) 混雑状況の開示

今回の選挙は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、宮崎県独自の緊急事態宣言が発令されている中での選挙でした。投票所では、手指消毒のアルコールや飛沫防止のスクリーンの設置、使い捨て鉛筆の使用などの感染症対策が実施されていました。しかし、新型コロナウイルスは次々と新たな感染力の強い変異株が発見されており、中には感染者とすれ違っただけで感染したという報告もあるほどです。こうしたことから、今後も三密を避ける行動が求められます。

選挙人に三密を避けてもらうために、過去の選挙における投票所の混雑状況を開示している選挙管理委員会もあります。本町においても、こうした取り組みが必要ではないかと思えます。

&lt;次頁へ続く&gt;

＜前頁から続き＞

以上をふまえ、町長にお尋ねします。

●投票区の統廃合に取り組むべきと考えますが、いかがでしょうか。

●共通投票所を導入してはどうかと思いますが、いかがでしょうか。

●期日前投票所を増設するべきと思いますが、いかがでしょうか。

●期日前投票所を増設するなら、各出張所、町病院、高校、商業施設がよいと思いますが、いかがでしょうか。

●投票の際の移動支援を実施するべきと思いますが、いかがでしょうか。

●選挙公報を発行するべきと思いますが、いかがでしょうか。

●子ども対象の投票キャンペーンに取り組んではどうかと思いますが、いかがでしょうか。

●性的少数者への配慮が必要だと思いますが、いかがでしょうか。

●選挙人に三密を避けてもらうために、過去の選挙における投票所の混雑状況を開示してはどうかと思いますが、いかがでしょうか。

順	質問者	件名	質問の要旨	質問相手
2	富高友子 議員	1. どうぶつ基金について	<p>どうぶつ基金とは野良猫に不妊手術を施し、地域で見守る事業です。</p> <p>「野良猫が増えているけど、どうしたらよいか」「できれば地域猫としてみんなでサポートしたい」殺処分してしまうのではなく、命を生かす方法を考えている人も少なくないでしょう。</p> <p>猫を保護するには、餌やりをするだけでは解決しません。野良猫はその繁殖力から、どんどん増えてしまい殺処分数もゼロにすることが難しいのが現状です。どうぶつ基金では、1匹でも多くの猫に不妊手術を施し、殺処分ゼロを実現することがもっとも有効な手段と考えられています。</p> <p>どうぶつ基金は全国の獣医さんや、行政、ボランティアの皆さんと協働してさくら猫無料不妊手術を行っています。</p> <p>さくら猫無料不妊手術事業は、飼い主がいない問題を殺処分ではなく、不妊手術（TNR）によって解決しようとする行政や、ボランティアの皆さんを支援する事業です。</p> <p>地域を回って見ますと、多頭飼育や野良猫に餌をあげ続けてどんどん繁殖し餌代も膨らみ、不妊手術をしたいけれど多頭おり、費用も高額で手術も出来ない方が多くおられます。猫を飼っていない人からは飼育環境が不衛生、常時糞尿、抜け毛、食餌、缶詰の空やごみが回りに散らかっており、アンモニア臭など悪臭がするとの苦情も増えています。</p> <p>人と猫が幸せに共生出来る社会を目指すために、殺処分ゼロの社会を実現するために、今出来る最善策として本町で、どうぶつ基金行政枠の無料不妊手術事業を取り組むことは出来ないか、町長に伺います。</p>	町長
		2. ペットの火葬場について	<p>今日どこの家庭でもペットと暮らす人たちが多く見受けられます。</p> <p>愛するペットが亡くなった時、家族の一員であるペットの火葬を希望される家族の声を良くお聞きします。現在火葬するには延岡市まで行かなければなりません。ペットを飼っている家庭は高齢者もあり、延岡市まで行くことが、遠くて大変であったり車に乗れない人もおり困惑されています。</p> <p>本町でもペットの火葬場について設置のお考えはないのか町長に伺います。</p>	町長



順	質問者	件名	質問の要旨	質問相手
3	磯貝助夫 議員	1. 本町のケアマネージャー不足を解消する町独自の取組みについて	<p>本町では、居宅・施設のケアマネージャーが不足しており、ケアマネージャーの仕事量が増加傾向にある。</p> <p>また、資格取得のためには、国家資格等を持ち、5年間の実務経験が必要などの条件があることや、受検するが、なかなか合格できないといった状況でありケアマネージャー確保が厳しいと聞く。</p> <p>ケアマネージャー自身も高齢となり現役を退く方も多く、育成を急がなければ居宅におけるケアプラン作成や、施設の運営が厳しくなると思われる。</p> <p>介護認定を受けている方や、これから受ける方の生活の充実に重要な役割を果たしているケアマネージャーの確保は必要不可欠であり、町として早急に取り組む、安定的な充実した介護体制を構築すべきであるとする。</p> <p>以上を踏まえ町長に伺う。</p> <p>1 介護・福祉の現場を守る具体的な施策は。</p> <p>2 ケアマネージャー育成に町主体で取り組むべきではないか。</p>	町長

順	質問者	件名	質問の要旨	質問相手
4	田中義了 議員	1. 高千穂鉄道 跡地公園化構 想	<p>①鉄道公園化構想の小冊子「なつかしい未来へ」は、誰が誰のためにいつ作成したのか。同時期に「第6次高千穂町総合長期計画（概要版）」が配付され、前者に比し貧弱で、しかも鉄道公園事業がどこにも見当たらないがどうしてか。</p> <p>②過去の「議会だより」において、その構想に具体的な数字が町当局の回答にあったが、10億円の事業費、利用者年間30万人、8年間で回収する。年間収入1億3千万円を見込むと。この数字は、令和3年2月に策定された高千穂鉄道跡地公園化基本構想でも変更はないか。</p> <p>③令和3年度予算（款）雑収入（項）雑入に高千穂鉄道施設整理基金精算分122,101千円を計上しているが、その用途はどうするのか。</p> <p>④令和4年2月に高千穂鉄道跡地公園化基本計画及び基本設計策定が予定されているが、その際、想定外のリスク（風雨災害・地震災害・投身自殺等）を勘案するのか。また、「祖母傾国定公園」内の人工物・地形変更について調査はしているのか。</p>	町長

順	質問者	件名	質問の要旨	質問相手
5	工藤博志 議員	1. 町議会議員 選挙を振り返 って	<p>1 町道の整備と維持管理について</p> <p>今回の選挙では町内一円くまなく回る。地域の幹線道路は草切りや排水溝ともに清掃され管理は行き届いていると感じた。一方少し入り込んだ道路では草切りが出来ていない所や排水溝の詰まりが見受けられた。特に土手側からの竹・小径木・蔓などの処分には過疎化・高齢化が進む中地元だけの管理には苦労と困難を極めていると感じた。</p> <p>現在、地元で維持管理していただいているのに対して道路愛護補助金が公民館に支援されていますが、年2～3回作業は実施されており、到底労働報酬に見合うものではありません。更に高齢化は進み、地元での維持管理が困難な地区が増加する前に対策を講じるべきと考える。</p> <p>町内有志により仮称町道管理組合などを立ち上げて頂きそういう組織に作業を担って（委託）いただくような方策を問う。</p> <p>2 町民との対話について</p> <p>議会は基本条例に基づいて議会報告会を年1回実施している。選挙運動期間中はもちろん、日頃から住民の皆さんと対話するなかで感じるのは、将来の生活より今日1日・今年1年を心豊に安心・安全に暮らしていくかが重要であり、日々の生活の満足度を高められると思う。</p> <p>どこに住んでいても同じ恩恵が受けられるよう、そして痒いところに手の届く住民サービスをするため、執行と合同での地区別座談会が是非必要と考えますが、町の考えを問う。</p>	町長

順	質問者	件名	質問の要旨	質問相手
6	佐藤さつき 議員	1. 新型コロナウイルス感染症ワクチン接種に関して本町の現状	<p>高千穂町で行われている、新型コロナウイルス感染症ワクチン接種に関して、次の点から現状を伺う。また、PCR検査、インフルエンザワクチン接種についても伺う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 年代別の接種状況について <ul style="list-style-type: none"> <li>・12歳以上18歳以下に関しては、どのような日程で行われているのか。</li> </ul> </li> <li>2. 使用されたワクチンの種類について</li> <li>3. 3回目の追加接種について <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施するのか。</li> <li>・実施する際の計画について、従来通りの順番で行うのであれば、日々の予定数の何割かを65歳以下の希望者枠にできないか。また、第5波も子供の感染が増加しており、これからも予測されるので、児童、生徒、乳幼児と接触する職場の就労者や、家族感染の心配がある方、観光地であるため接客業の方など早めの接種が必要と思う。</li> </ul> </li> <li>4. 町民がPCR検査を気軽に受けれる方法を問う。</li> <li>5. 昨年度、新型コロナウイルス感染症ワクチンがまだ開始していなかったため、インフルエンザワクチンを接種したい方ができなかった事例がある。本年度の予定は。</li> </ol>	町長